



平成19年11月2日

各 位

会社名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 丁 廣鎮
(JASDAQ・コード3779)
問合せ先 IR本部部长 福菌 雅士
(電話 03-3507-6350)

平成20年3月期中間（連結）業績予想との差異及び通期（連結）業績予想の修正
並びに当社子会社の特別損失の発生に関するお知らせ

平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の業績予想について、平成19年5月11日付当社「平成19年3月期決算短信」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、平成19年11月2日開催の当社取締役会において、当社子会社である株式会社エスコムが保有するたな卸在庫の一部について損失処理することを決議いたしました。この結果、平成20年3月期の中間連結決算において、下記のとおり特別損失を計上することとなりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想の修正等

中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	188	△141	△145	△150
今回修正予想（B）	163	△141	△145	△150
増減額（B－A）	△ 25	－	－	－
増減率（％）	△13.3	－	－	－
（ご参考） 前期実績（平成19年3月期中間）	232	△175	△171	△187

通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	2,015	△110	△115	△120
今回修正予想（B）	1,558	△195	△200	△205
増減額（B－A）	△ 457	△ 85	△ 85	△ 85
増減率（％）	△22.7	－	－	－
（ご参考） 前期実績（平成19年3月期）	397	△308	△307	△375

2. 修正の理由

(1) 中間連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、教育事業セグメントにおける教材販売に関して、従来の代理店販売から、新たに塾や学校等の教育関連施設への販売方法の移行を目指してきたものの、市場調査及び分析に時間がかかり、当初予想を下回る見込みとなりました。また、同セグメントにおける教師ネットワークを活用した事業展開についても、教師向けセミナーを開催するなどの営業推進をして参りましたが、当初計画していた継続的収益獲得に及ばない見込みとなりました。衛星放送事業セグメントにおきましては、概ね当初予想どおりの売上を見込んでおります。商事部門セグメントにおきましては、従来の事務消耗品卸販売の低迷を補うべき、化粧品等の新規消耗品商材を発掘し、定期販売を目指して営業活動を進めて参りましたが、収益獲得に至っていないことから、当初予想を下回る見込みとなりました。

営業利益及び経常利益につきましては、販売手数料や保管料等の経費削減効果により、当初予想からの変更はない見込みです。

中間純利益につきましては、今回の子会社における新たな特別損失の発生がありますが、貸倒引当金戻入等の特別利益の計上により、当初予想からの変更はない見込みです。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、中間期の減少分に加えて、教育事業及び商事部門の両セグメントにおける上記事業の展開に遅れが生じている現状から、教育事業セグメントでの当初予想145百万円から56百万円に、商事部門セグメントでの当初予想414百万円から50百万円に、それぞれ下回る見込みです。

営業利益及び経常利益並びに当期純利益につきましては、売上減少分の影響があることから、当初予想を下回る見込みです。

3. 特別損失の発生及びその内容

当社子会社である株式会社エスコムにおきましては、同社の教材販売事業の再構築を推し進めると共に、昨年度末においてたな卸資産の再評価を行い、財務諸表の健全性を高めたうえで、その後の販売活動を続けて参りました。顧客の商品ニーズに対応したことや商品劣化により、一部教科が不足するセット商品や端材が発生しており、今回たな卸資産から除くことにいたしました。

つきましては、商品としての活用が難しい在庫約7百万円分を商品評価損として計上し、平成20年3月期中間連結決算における特別損失が発生することになりました。

4. 単独の業績予想について

単独の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、当初の予定に変更はありません。

※ 業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上